



「希望の春」がやってきました。

今年は桜の便りが早く届き始めました。校門横の桜のつばみも一斉に膨らみ始め、多くの芽吹きをもたらす春がやってきました。昨日、三田小学校第152回卒業証書授与式を行い、6年生106名が巣立っていきました。そして、今日は令和7年度修了の日です。一人一人の今年での成長を確かめ、次の学年に向けて期待が膨らむ「希望の春」がやってきました。

6年生が学校に残した「進めていく勇氣」

卒業していった6年生が大切にしてきた言葉があります。「自進前進～つくる、つながる、つたえる～」この一年、三田小学校の先頭に立ち、全校生を引っ張ってくれた6年生は、学校にたくさんのものを残してくれました。6年生の下駄箱の壁には、これまで一番近くで見えてきた5年生からのメッセージが貼ってあります。「優」、「憧」、「輝」など、それぞれが6年生に贈りたい一文字を選び、毛筆で書いた一文字の横に言葉が記されていました。



卒業の直前まで進められた「あいさつ運動」。しだいに中学年や低学年も加わり、あいさつ運動が広がっていきました。

「6年生は苦手なことに挑戦して、いつも見本になってくれました」「いつも頼りになる6年生でした」「6年生はどんな時にも勇氣のある人達でした。登校班で前に立って勇ましい行動を見せてくれました」「勇氣を出して、縦割り班をつくってくれたり、新しく今までにないことをやってくれたりして、全校生を楽しませてくれました」「新しいことを企画する姿がとても勇かんでかつよかった」

壁一面に6年生への感謝の言葉があふれていました。5年生がそれぞれに思いを込めて選んだ一文字なのですが、その中で、多くの子が選んだ文字がありました。それは「進」、「勇」、「挑」という文字です。6年生は、学校目標「ひとも自分も学校もふるさと大切にできる三田っ子」の実現に向け、自分たちで考えた様々な企画を進めてきました。時にはうまく進

まないことに直面しながら、工夫を重ね、粘り強く挑戦し続ける姿がありました。下学年の子達にもそんな6年生の姿がしっかり届いていたようです。

登下校や学校行事、それに休み時間や掃除の時間も、どんな時でも、下学年を思いやる優しい眼差しと、たくさんの優しさに支えられ、この1年、三田小学校は思いやりの気持ちがあふれる温かな学校であったと感謝の気持ちでいっぱいです。



今年度の成長を自信に 次の学年へのステップ

本日、1年生から5年生は、それぞれの学年の1年間の教育課程を終え、修了の日を迎えました。しっかりと鉛筆を握り、漢字やひらがなの学習に取り組んだ1年生。九九練習を繰り返し、係活動や話し合いの力を伸ばしてきた2年生。多くの人と出会い、聞く力、発表する力を伸ばしてきた3年生。仲間と対話をすることや協力し合うことを学び、学年の力を高めてきた4年生。6年生の背中を追いかけ、自主的な活動を通して、集団としての力を高めてきた5年生。どの学年も1年間の学習や行事を通して大きく成長し、力を付けることができました。この1年の成長を自信に、次の学年へのステップをしっかりと踏んでほしいと思います。

本日、3学期の「あゆみ・修了証書」をお渡しします。この1年間の成長をご家庭でもお子さんと一緒に振り返っていただき、次の学年に向けた励ましの言葉をかけてあげてください。

お知らせ 年度初めの「まなびポケット」の連絡について

「まなびポケット」の学校への連絡機能(欠席連絡等)は、新学期当初も引き続き活用いただけます。新しい学年、学級への切り替えは4月8日の始業式後に行います。学校からの手紙等も「まなびポケット」アプリで配信します。ログイン等で、不具合がある場合には学校にご相談ください。春休み期間、1年～5年生は児童用タブレットを各家庭へ持ち帰ります。

◀4月の主な学校行事予定▶

日	曜	行事	日	曜	行事
8	水	1学期始業式(下校 11:45)	21	火	家庭確認日②(下校 13:45)
9	木	短縮授業日(下校 11:45)	22	水	給食開始(1年) 内科健診① 委員会活動(5・6年)
10	金	短縮授業日(下校 11:45)	23	木	全国学力・学習状況調査(6年) 家庭読書の日
13	月	令和8年度入学式(下校 11:35) ※2～5年は家庭学習日	24	金	内科健診②
14	火	短縮授業日 友区児童会(下校 11:45)	27	月	内科健診③
15	水	給食開始(2～6年)(下校 13:45) 1年生との対面式	28	火	内科健診④
17	金	学級・学年懇談会 15:00～ (下校 14:45)	29	水	授業参観、引き渡し訓練
20	月	1年生心電図検査 家庭確認日①(下校 13:45)	30	木	全国学力・学習状況調査(6年質問紙調査)

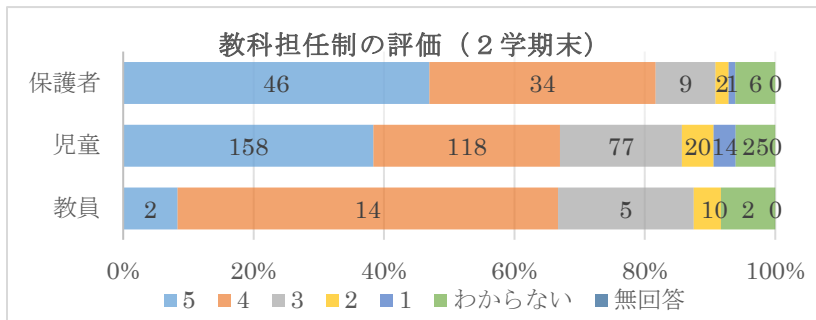
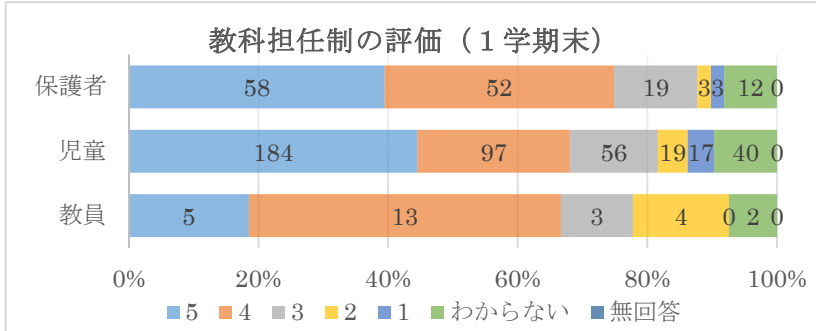
○17日(金)の「学級・学年懇談会」は、学年全体で懇談を行う場合もあります。担任紹介、学年行事の予定、教科指導等についてお伝えする予定です。

○23日(木)の全国学力・学習状況調査は6年生対象に全国一斉に行われる調査で、今回は、国語、算数の調査が行われます。

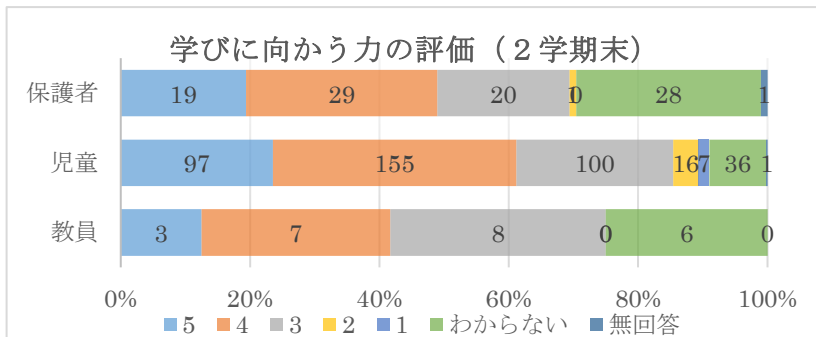
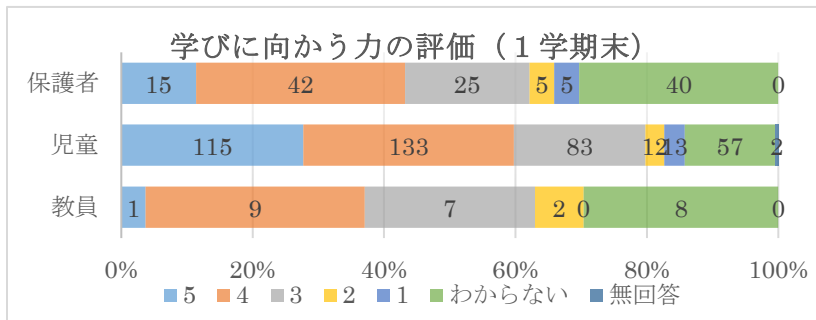
児童の学びに向かう力を高める「教科担任制」に！

今年度、教科担任制に関するアンケートを1学期末、2学期末の2回、保護者（3～6年）、児童（3～6年）、教員に実施しました。これは、兵庫県が教科担任制を進める目的で配置している加配教員を活用し、3年生以上で担任間の交換授業をあわせて実施する教科担任制による指導を検証する目的で行ったものです。ここでは、アンケート結果の概要と次年度に向けた方向性をお伝えします。

【教科担任制の評価】



【教科担任制による「学びに向かう力の高まり」の評価】



【教科担任制の評価の理由】

評価の視点	保護者	児童	教員
教科によって先生が代わるのがよい	62	254	11
たくさんの先生と関われるのがよい	116	261	34
先生によって教え方やルールが違うのがよい	18	95	1
ほとんどの教科を同じ先生に教えてもらいたい	1	62	0
一人の先生と深くつながりたい	10	29	0
先生によって教え方やルールがちがうから大変	16	98	2
無回答	7	26	4

○「教科担任制」、「学びに向かう力の高まり」の評価は、5「よい」→1「よくない」の順です。

○「教科担任制の評価の理由」の数値は、回答時にその理由として選択した各項目の人数（1学期末、2学期末の合計）です。

【自由記述(保護者)から】※抜粋して紹介します。

- 子どもにとっては多くの先生と関わることが良い経験だと思う。先生の負担も教科担任制で減るのであれば、なおよいと思う。
- 担任の先生が全ての教科を網羅する事は難しいと思う。教科書通りに教えるしかなくなってしまうと思う。その教科において、知識を持った先生が指導してもらえるのであればプラスになると思う。
- 教科担任制は同じ教科でクラスによって差が生まれないのがよいと思う。
- たくさんの先生と関わることで、違う視点で子供をみてもらえるのでよい。先生達の間でしっかり情報共有してもらい、関わる先生全員が子どもとしっかりと向き合ってもらえる体制を整えてほしい。
- 教科担任制について、子から「いろいろな先生に教えてもらえて楽しい」と聞いている。たくさんの先生と関われる機会は親としても大切だと考えている。

～教科担任制に不安を感じる声～

- 教科担任制は、学級ごとに教え方のばらつきはないが、先生との深いかかわりが減ると思う。
- たくさんの先生と関わっていいと思う反面、担任の先生やクラスとの絆が薄くなってしまふのでは。
- やっぱり子どもは担任の先生が一番なので、担任の先生と多く長く深く関わりを持ってたら嬉しい。
- 中学から誰もが経験できるものをわざわざ小学生から導入する必要性があるのかと感じる。
- 教え方やルールが統一されていると思うが子どもはバラバラに感じているところもあるようだ。きちんと担任先生と教科担当の先生が子どもの様子(理解度等も含め)を連携してもらいたい。

【自由記述(教員)から】

- 多くの教員が目でも子ども達を見ることができると、子どもの悩みやトラブルを早期に発見するメリットを実感している。
 - 教材研究や授業の組み立てが教科担任制になると十分にできると思う。また、学年の担任団の連携や情報共有が適切であれば、複数の先生で児童理解を深め、多面的な評価や指導が行うことができると思う。
 - 教材研究や準備の効率は向上している。教科ごとの子どもの様子を共有することで、学年の課題がはっきりと見えるようになった。
- ※今年度、教科担任制の時間割編成や指導体制において課題があったことや、保護者や児童アンケートを受けて、校内で定期的に情報交換や検討を進め、改善に向けて進めていました。

【来年度に向けて】

- 中・高学年で教科担任制を推進する上で、保護者の皆様にお伝えしてきた教科担任制の目的は、
①教員の指導力向上・児童の学力向上 ②複数教員の関与による児童の多面的な理解
③中1ギャップの解消 ④授業準備、教材研究の効率化による教員の働き方の見直し でした。アンケート結果から、保護者が効果的と受け止められているのは、上記の目的②、③に関する部分が大いと感じます。また、④の視点、「教員の働き方の見直し」に言及された意見も多くいただきました。その意見に教員は勇気づけられました。
- しかし、「学びに向かう力の高まり」の評価において、保護者、教員の評価で「わからない」が多くを占めた結果からも、目的①の視点「教員の指導力の向上・児童の学力向上」については実感の伴った成果につながっていないと感じています。一層の授業改善を進める必要があると考えています。
- 令和8年度、三田市教育委員会指定研究「新たな指導体制構築事業(2年次)」を受け、特別活動を軸に、主体的・協働的な学習集団づくりを進めていきます。子ども達が、特別活動で経験する対話的で、問題解決的な学びが他の教科でも生かされ、保護者、児童、教員が、教科担任制での「学び方」の変化が実感できるよう授業改善を推進していきたいと考えます。来年度の3年生以上での教科担任の具体は、4月の学年通信や学年・学級懇談会の場でお伝えします。